



2024-25年度に向けての
地区会員増強セミナー

新しい増強活動について

2024年5月18日

2024-25年度

RI第2660地区クラブ奉仕・拡大増強委員長

樋口武英 (大阪東RC)

はじめに

昨年に引きつづき地区奉仕・拡大増強委員長を務めます、大阪東ロータリークラブの樋口武英です。どうぞよろしくお願い致します。

RI研修リーダーの宮里直前ガバナーよりDEIをベースにした切り口でお話しいただき、大変参考になりました。ありがとうございました。

昨年度は「会員の少ないクラブの活性化」について私の考えるビジネスモデル「群れの経営」をベースにお話させていただきました。

今年度は会員増強について新しい視点から二点お話しさせていただきます。

なお発表時間の関係でご紹介ができませんが、4月20日地区研修・協議会にてお話された服部陽子パストガバナーの抜粋と四宮孝郎パストガバナーのファシリテーション方式による議論の資料を添付していますので参考にして下さい。

よろしくお願いいたします。

今年度の活動方針について

昨年度は「会員の少ないクラブの活性化」について私の考えるビジネスモデル「群れの経営」をベースにお話させていただきました。2024-25年度は次の二つの視点から会員増強活動を提言させていただきます。

- ① 会員増強の新しい視点は大学に有り
- ② 小クラブ活性化の提言

会員増強の新しい視点は
大学に有り

会員増強の新しい視点は大学に有り

1. 革新的な考えでクラブ創設を考える

延原ガバナーのお話に「革新的クラブ」について触れておられますので、新しい仕組みをつくるという観点から、大学のサークル活動に目をつけて考えてみました。

2. なぜ大学のRACに目をつけたか

なぜ大学のRACに注目したかですが、昨年7月に神戸ポートピアホテルで開催された第3地域戦略計画セミナーに参加したときに、本日事例発表していただきます広島大学RAC代表下野様の話を聞き感じるところがあり調べた結果です。

会員増強の新しい視点は大学に有り

大学生は毎年必ず入ってきます。一般的に学生は卒業してからも学校を通じての帰属意識が強く、多くの人は一生涯つながりを持っています。この点に目を向けますと、大学のサークル活動としての積極的なRAC設立は新しい視点での対応と考えます。

一方、学生にとってはロータリアンとの出会いは就職活動にも大変プラスになります。

また卒業してからも同じ大学同士のつながりは強く、将来的に同一大学の卒業生で構成するロータリークラブの設立を視野に入れますと、会員増強の観点から大きな仕組み作りになると考えます。

会員増強の新しい視点は大学に有り

3. 日本の大学の状況

ところで、大学は日本に793校あり、このうち首都圏に3割、関西圏に2割が集中しています(資料①)。学生数で見ますと約293万人です。RI第2660地区は全国有数の大学密集地であり、40(全国比5%)の大学と20.2万人(全国比7%)の学生が集まっています。

見方をかえればRI第2660地区は毎年約5万人の学生が入学し、卒業していくということになります。このように毎年入学してくる学生をベースに大学内RACに勧誘することは、コンスタントな会員増強になります。

現在2660地区RACは関西大学と大阪学院大学の2クラブだけです。また同一大学卒業生によるRCは有りません。

👉 関西大学RACは吹田江坂RCの提唱で2009年12月に当地区で初めての大学RACとして誕生しました。大阪学院大学RACは大学創立60周年の2023年6月に大阪南RC提唱のもとに誕生しました。

会員増強の新しい視点は大学に有り

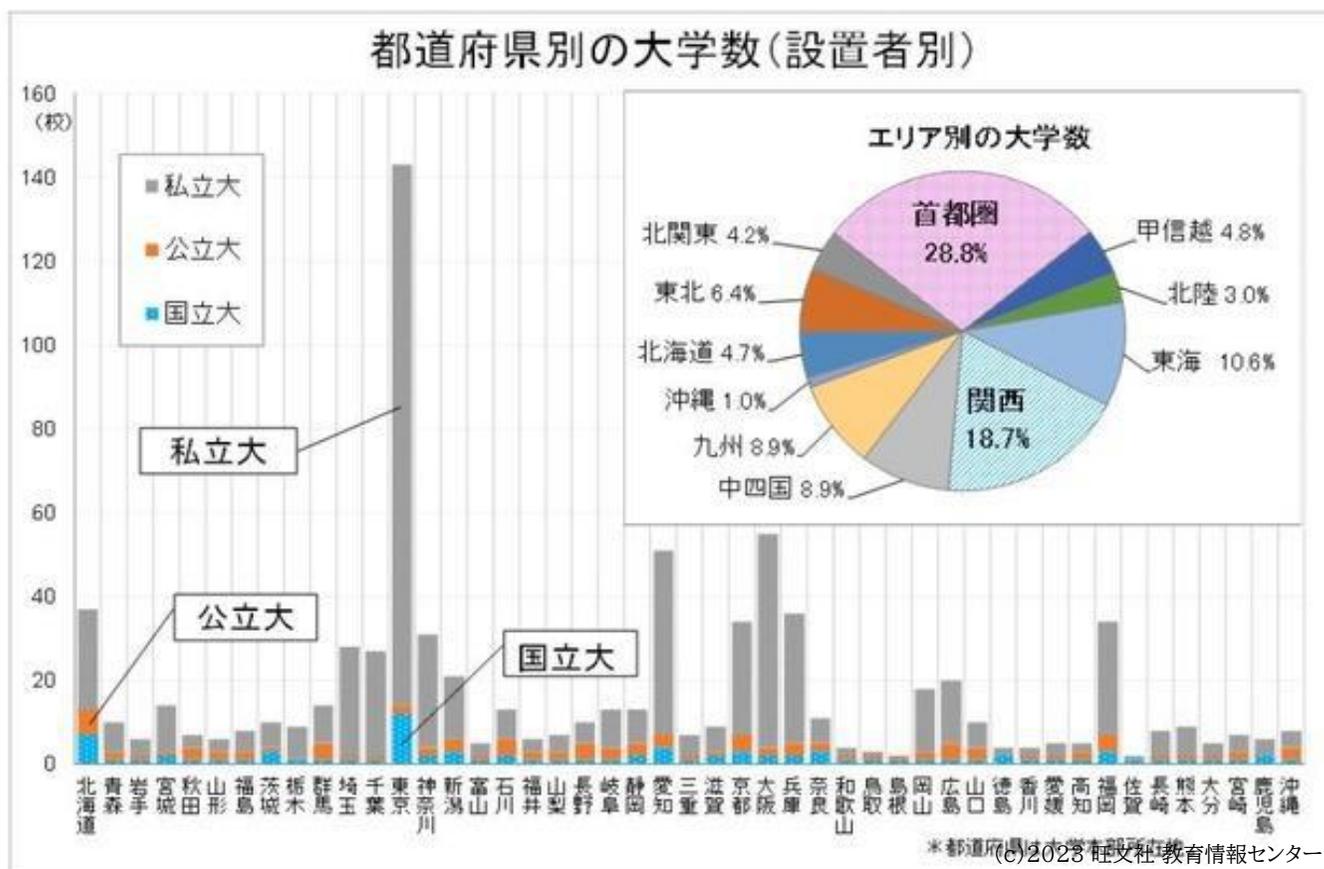
4. ポイントは

1. 特別な勧誘活動をすることなく新しい会員候補者が定期的に入ってくる。
2. 同じ大学卒と言うだけで将来にわたり大きなつながりが続く。
3. 学生にとって、社会的に成功したロータリアンとの接点を持つことは就職活動に大きなメリットがある。
4. **問題は継続した資金援助です。**
5. 将来的に一つの大学の卒業生だけのロータリークラブを作ることができれば、継続した会員増強システムが構築できる。
6. 発想を変えて、先に同一大学卒業生のロータリアンが新たにRCを作り、活動してから、大学内RACを作る方法も考えられます。
7. 同一大学卒業生が集まったRC設立をすることにより、スポンサークラブになることで、ひとつの仕組みが出来ます。一つのサイクルができれば、会員増強や資金負担の問題もスマートに解決します。

日本の大学数と関西の学生数(2023年度)

日本の大学数は793校。首都圏に3割、関西に2割が集中。

学生数は約293万人



RI第2660地区大学数と学生数(2021年度)

吹田市	5	46,417		
高槻市	2	6,855		
守口市	1	2,540		
枚方市	3	17,131		
茨木市	4	18,542		
八尾市	1	3,584		
寝屋川市	2	9,581		
大東市	2	8,901		
箕面市	1	3,843		
摂津市	1	1,682		
東大阪市	4	32,529		
柏原市	2	6,396		
四条畷市		2,290		
合計	40	201,927		
男女構成				
		男	60.3%	
		女	39.7%	

大学には次に示すようないくつかのボランティアサークルがあり、大学側としても支援センターを開いています。参考のため例示します。

大学のボランティアサークル

大阪府の大学ボランティアセンター

関西大学 ボランティアセンター

<https://www.kansai-u.ac.jp/volunteer/>

大阪教育大学 ボランティアデスク

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/campus/volunteer/volunteerdesk/>

関西学院大学 ボランティア活動支援センター

https://www.kwansei.ac.jp/c_volunteer

桃山学院大学 ボランティア活動支援室

<https://www.andrew.ac.jp/volunteer/>

大阪キリスト教短期大学 きりたんセンター

<https://www.occ.ac.jp/campus.life/volunteer-2/>

大阪府立大学 ボランティア・市民活動センターV-station

<https://volunteer.ao.osakafu-u.ac.jp/>

大阪市立大学 ボランティアセンター

https://www.osaka-cu.ac.jp/ja/education/after_school/volunteer/volunteer.member

会員数の少ないクラブの活性化

会員数が少ないクラブの活性化

2660地区には50名以下のクラブが59クラブあり、全体の77%を占めています。30名以下に絞りますと33クラブあります。

2024-25年度当委員会としては少人数クラブの増強や活性化のお手伝いができたらと考えています。

そこで、今年度の事例報告は厳しい環境の中増強に成功された2つの少人数クラブに発表をお願いしましたのでぜひ参考にして下さい。

会員数が少ないクラブの活性化

いずれのクラブも設立時には思いや大きな目標があって誕生しました。しかしながら年を経て、とりまく環境の変化、高齢化、会員数の減少による組織の衰退等の諸問題が目前に迫ってきています。

解決策のひとつとして昨年度は、私のビジネスモデル「群れの経営」の考え方を提言させていただきました。

この考え方をヒントにすれば、クラブ独自の歴史や文化を保ちつつ、他のクラブと力をあわせることで、より地域に根ざした活動を活力を持って続けることができるのではないかと考えます。

群れについて



会員数が少ないクラブの活性化

クラブ同士が力をあわせてできる事を考えてみますと

- 例えば
1. 合同例会を開催する
 2. 共同で会員増強をする
 3. 各委員会活動を分担する
 4. イベントや勉強会を合同で開催する
 5. 例会場や事務局を共同で利用する
 6. 週報や機関誌を合同で発行する
 7. クラブ同好会活動を共同して行う

少人数クラブでもできることは

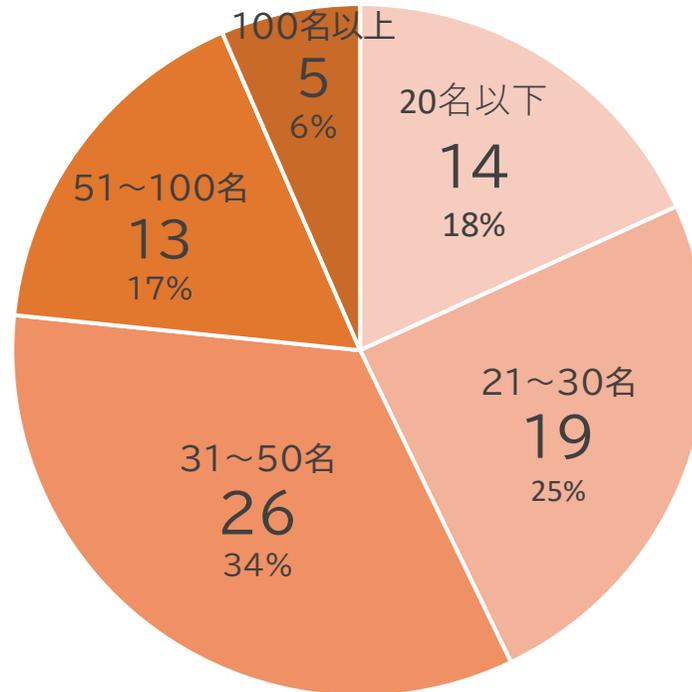
発想を変えてみては、いかがでしょうか

- 少人数クラブでできることに絞って考えるのも一つの選択肢ではないでしょうか。
- あるクラブは一年に一度スキー大会だけの活動メインに活動しているクラブもあります。
- またあるクラブでは地域のボランティア活動に特化しているところもあります。

これこそ**多様性**ではないでしょうか。

クラブ会員数の分析(2023.2)

会員数毎のクラブ数



20名以下	14クラブ
21~30名	19
31~50名	26
51~100名	13
100名以上	5
合計	77クラブ

■ 20名以下 ■ 21~30名 ■ 31~50名 ■ 51~100名 ■ 100名以上

20名以下のクラブ

20人以下のクラブ

		24/3末
IM第1組	箕面千里中央RC	12 (2)
IM第2組	大阪東淀ちゃやまちRC	17 (1)
	大阪淀川RC	18 (0)
	千里	19 (4)
	千里メイプルRC	19 (0)
	高槻西RC	19 (1)
IM第3組	門真	18 (2)
	香里園RC	15 (0)
	守口イブニング	18 (1)
IM第4組	東大阪西	20 (0)
	東大阪中央RC	16 (1)
	東大阪みどりRC	17 (0)
IM第6組	大阪イブニングRC	13 (0)
	大阪咲洲RC	19 (0)

※()は7月以降の累積退会者数です

50名以下のクラブで
本年度会員増強に成功しているクラブ(3名以上)

		24/3末(増員数)
IM1組	大阪北梅田RC	52名 (3)
IM2組	茨木RC	30名 (3)
IM2組	新大阪RC	33名 (3)
IM5組	大阪堂島RC	45名 (5)

新しい革袋と古い革袋

多様性でクラブ活性化へ
多世代型のクラブを目指す

多様性でクラブ活性化へ 多世代型のクラブを目指す

最後になりますが、東京広尾ロータリクラブ服部陽子パストガバナーが研修会で述べられた「ロータリーの多様性」を推し進め、多様な世代がひとつの仲間につどい、奥行きと深さを持ったロータリー組織をめざさなければなりません。

この場合忘れてならないのは、変えてはならないものとして

1. ロータリーの目的
2. 「四つのテスト」
3. ロータリーの中核的価値観

を新しい革袋に古い革袋からうけつがなければなりません。

このことをしっかりと堅持し、勇気をもってすすみましょう。

多様性でクラブ活性化へ

① 多世代型のクラブを目指す

多世代で構成される組織の魅力

- ・多様な世代がひとつの仲間に。
- ・楽しさ、奥行きのある深さをもった組織



20代

30代

40代

50代

60代

70代

80代

90代

全員参加で オーケストラのようなクラブ作り

ロータリークラブに傍観者はいません。

それぞれ、自分の得意な楽器を持ってください。

そして、会長の指揮に合わせて素晴らしいハーモニーを創りましょう！



変えてはならないもの

ロータリーの目的



ロータリーの目的は奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。
具体的には次の各項を奨励することにある。

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業及び社会生活において日々、奉仕の理念を実践すること：
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること

変えてはならないもの 「四つのテスト」



言行はこれに照らしてから

- **真実か どうか**

Is it the TRUTH ?

- **みんなに公平か**

Is it FAIR to all concerned ?

- **好意と友情を深めるか**

Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?

- **みんなのためになるか どうか**

Will it be BENEFICIAL to all concerned ?

変えてはならないもの

ロータリーの中核的価値観 CORE VALUE

- ・奉仕 SERVICE
- ・親睦 FELLOWSHIP
- ・多様性 DIVERSITY
- ・高潔性 INTEGRITY
- ・リーダーシップ LEADERSHIP

参考(3) 4/20 四宮孝郎パストガバナーお話より

【現状】

- 世界のロータリーの会員数は約140万人で推移している(ロータリーアクターを含む)
- 毎年約15万人の入会者があるが、同じく15万人の退会者がいる
- 入会1年未満での退会者は約10%
- 3年未満での退会者は約48%

【課題】

- ロータリーの魅力が減少
- 特に例会の魅力が減少していることにより出席率も低下
- クラブ内での友人ができない

【改善点】

- 新会員に対する研修の充実
- メンター制度の導入
- 同好会等を通じた交流
- 例会の運営の見直し

仲間をふやし
共に成長していきましょう



ご清聴ありがとうございました